

第157期 中間期 株主通信  
2014年4月1日～2014年9月30日

Your Dream Is Our Business

化学で夢のお手伝い

# BUSINESS REPORT

私たちは、化学技術の絶えざる革新を通じ、お客様が期待し満足する高品質の製品・サービスを世界に提供し、環境調和型の生活文化の創造に貢献します。

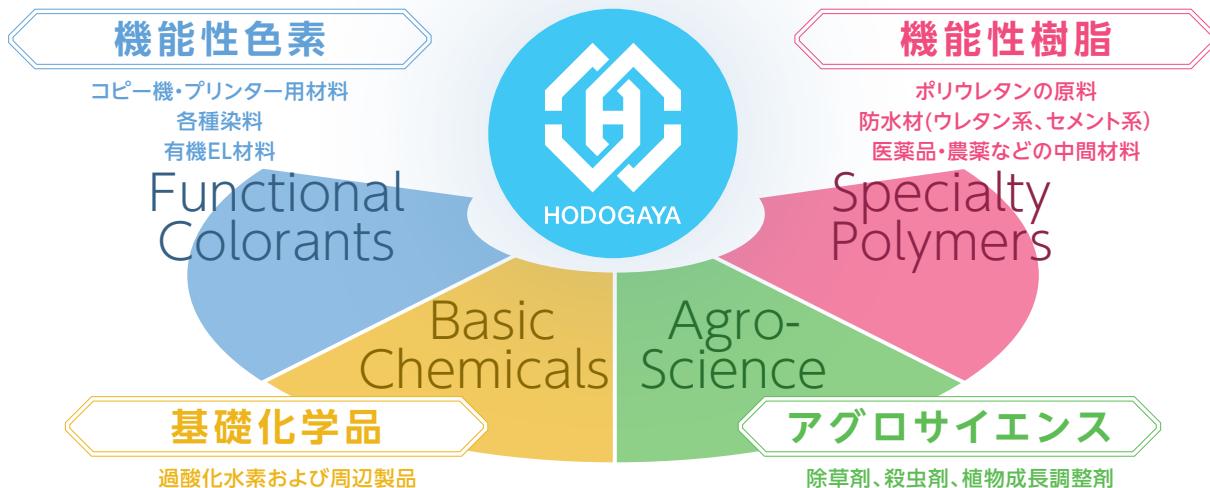
#### ■ 女性の役員・管理職登用にに関する自主行動計画

保土谷化学グループは、コンプライアンス行動指針に「人権の尊重と差別の禁止」を明記しており、採用・昇格などに関しましても、年齢、性別、国籍を理由に差別することはありません。

今後も、男性・女性の区別なく、優秀な人を登用していく考えであり、計画的な育成と公平な評価によって、女性の活躍を一層推進してまいります。

今後、女性社員には、「より責任ある業務に就き、自ら成長する」という動機付けのための研修を、新たに実施すると同時に、女性社員を部下に持つ管理職全員に対し、ダイバーシティ研修も実施いたします。

このような施策を通じ、女性管理職の割合を2020年度までに、現状の3%から倍増の6%になるよう推進してまいります。



# 確かな経営施策とたゆまぬ経営努力で “再建の年”の力強い一歩を踏み出しました。



保土谷化学工業株式会社  
代表取締役社長

喜多野利和

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは2016年の創業100周年という大きな節目に向けて、「グローバル・ニッチ分野で、オンリーワン・ナンバーワン素材を提供し続ける企業」となることを目指し、基盤事業・企業体質の強化や事業拡大などに取り組んでおります。こうした中、ここ数年間に及んだ厳しい経営環境からの脱却と業績回復を果たすべく、当社グループでは2014年度を“再建の年”と位置付け、的確な経営施策と不断の経営努力を重ね、黒字転換へ向けた力強い一歩を踏み出しました。ここに2014年度上期（2014年4月1日～9月30日）の業績および今後の見通しについてご報告いたします。

2014年12月

## ■ 2014年度上期連結業績サマリー

(前年同期比)

売上高	163億77百万円	△4.4%
営業利益	42百万円	△29.3%
経常利益(△損失)	△19百万円	—
四半期純利益(△損失)	△69百万円	—

# 上期の業績について

経営体質の改善効果により  
上期の業績は営業損益黒字を確保しました。

2014年度上期における我が国の経済環境は、4月の消費税増税や夏季の天候不順などの影響により個人消費等に冷え込みが見られたものの、企業の設備投資や雇用・所得の改善を背景に、概ね回復基調を取り戻しつつあります。また、世界経済は米国が好景気を維持する一方、地政学的リスクやアジア新興国の減速もある中で、力強さを欠きながらも安定的に推移しました。

このような情勢のもと、上期の連結売上高は、前年同期比7億57百万円減の163億77百万円となりました。当社事業においては、基礎化学品セグメントで増収を確保した一方、機能性色素・機能性樹脂・アグロサイエンスの3つのセグメントで減収となっております。

基礎化学品セグメントにおいては、一部工業薬品の輸出増により増収となりました。また、機能性色素セグメントにおいては需要の落ち込み、機能性樹脂セグメントにおいては一部製品の事業撤退の影響、アグロサイエンスセグメントにおいては、競争激化と在庫調整の影響、などにより減収となりました。

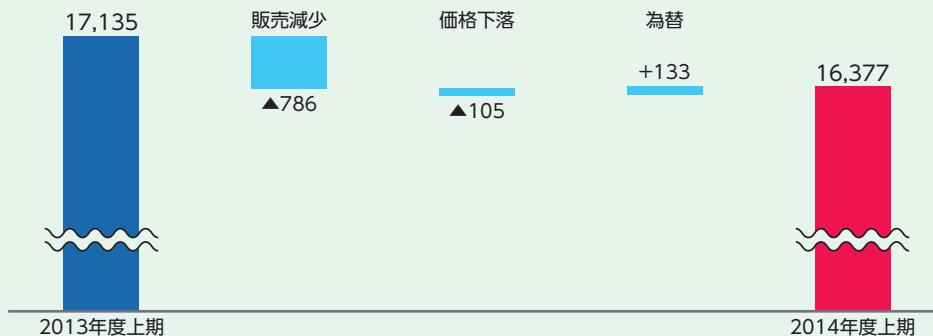
また損益面では、売上高の減少や、円安による原材料・燃料価格の高騰等がありましたが、販売管理費等のコスト低減に努め、営業利益を前年同期比17百万円減の42百万円にとどめました。

経常損失は為替差益等により前年同期比79百万円改善の19百万円となり、上期純損失は前年同期比2億42百万円改善の69百万円となりました。

なお、配当金につきましては、業績動向、将来の事業展開、不測のリスク対応等を総合的に勘案し、配当予想通り中間配当を1株当たり2円とさせていただきます。

## 売上高(連結)要因別内訳

(単位:百万円)



# 2014年度通期の見通し

## 更なる拡販とコストダウンに注力し より確固たる“再建”を追求します。

“再建の年”と位置付けた2014年度の上期には、業績回復に寄与する体質強化のための様々な施策を実施してまいりました。そして同時に、続く下期とその先の創業100周年を見据えて、新製品づくりのための研究開発やグローバルな事業展開に資する人材の育成、さらに産学官プロジェクトへの参画といった攻めの施策、いわば将来の収穫を見据えた種蒔きにも取り組んでおります。

下期はこうした方針を維持しながら、各事業セグメントにおいて次のような取り組みに注力してまいります。

機能性色素セグメントにおいては、今年4月、駐在事務所から現地法人化し、8月から営業をスタートした中国の保土谷（上海）貿易有限公司を足掛かりに、アジア地域へのトナー用電荷制御剤の拡販をさらに推し進めてまいります。

機能性樹脂セグメントにおいては、石油系ではなく植物を原料とする環境配慮型のバイオ製品の販売促進に注力するほか、積極的な工事取り込みにより建築材料の売上を伸ばしていきたいと考えています。

基礎化学品セグメントでは、養殖魚の寄生虫駆除剤サカナガードなどの拡販を通じて、主力製品である過酸化水素の市場シェア拡大を目指します。さらに、昨年7月の日本パーオキサイド(株)との合併効果を実裏に取り込み、生産性の向上や業務の効率化を追求します。

アグロサイエンスセグメントにおいては、新製品の上市を目指しています。また、下期には特に需要が高まる除草剤の拡販に努めるとともに、前期に引き

続き、各地に増えつつあるメガソーラー施設（太陽光発電所）の除草剤散布受託業務にも注力してまいります。

グループ全体としては、海外市場も含めた拡販施策を意欲的に展開するとともに、あらゆる領域におけるコストダウンを推し進め、一部の製品については、販売価格の値上げをさせていただきました。さらに、新製品の開発・販売にも積極的に取り組んでまいります。また前出の保土谷（上海）貿易有限公司においては、原料購買機能も持たせ、当社グループの原料の安価調達をさらに推進します。そして、こうした施策を確実かつ迅速に実行していくことで、当社グループの“再建”をより確かなものにしながら、2016年の創業100周年に向けて、より安定的な収益基盤づくりに邁進してまいります。

なお、上記の経営環境や取り組みを踏まえた2014年度通期の連結業績予想は、売上高365億円（前期比2.3%増）、営業利益6億円、経常利益1億500万円、当期純利益1億円を見込んでおります。また、期末配当につきましては、1株当たり2円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

### ■ 2014年度通期連結業績予想

売上高	365.0億円
営業利益	6.0億円
経常利益	1.5億円
当期純利益	1.0億円

## 機能性色素



### ■ 上期の概況

イメージング材料事業は、プリンター向け材料の需要が引き続き低迷し、減収となりました。色素材料事業は、繊維染色用染料で前期末に実施した事業売却による影響や、食用色素では消費税増税前駆け込み需要の反動があったものの、文具並びにカラーフィルター用染料の需要が伸び、前年同期並みとなりました。有機EL材料事業は、スマートフォン向け需要の減少、および競争激化の中、減収となりました。以上の結果、売上高は41億86百万円、営業損失は5億13百万円となりました。

### ■ 売上高

**41億86百万円**

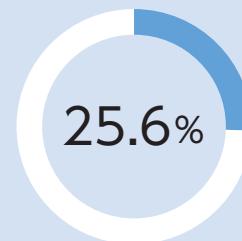
(前年同期比8.6%減)

### ■ 営業利益(△損失)

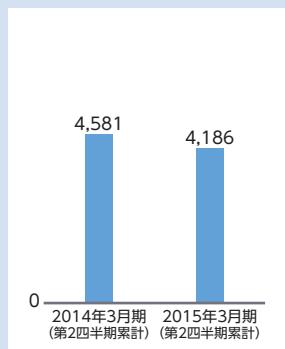
**△5億13百万円**

(前年同期比一)

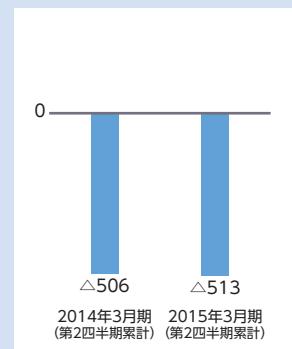
### ■ セグメント別売上高比率



### ■ 売上高(百万円)



### ■ 営業利益(△損失)(百万円)



事業	用途
イメージング材料	トナーの重要な添加剤であるCCA(電荷制御剤)、コピー機・プリンターの心臓部品であるOPC(有機光導電体)ドラム用の材料、インクジェットプリンター用の染料
色素材料	アルミ着色用および文具用の染料、カラートリートメント用染料、食品添加物
有機EL材料	有機ELディスプレイ・照明の主要材料(正孔輸送材料・電子輸送材料・発光材料)

# 機能性樹脂



## ■ 上期の概況

樹脂材料事業は、剥離剤の需要が伸び、ポリウレタン原料も国内外の需要が堅調であったものの、一部の製品の事業撤退の影響で、減収となりました。建築材料事業は、ウレタン系材料販売で、大手顧客向けが需要減により販売が減少しましたが、防水工事では、大型物件が、継続して獲得できたことで、前年同期並みとなりました。特殊化学品事業は、樹脂関連分野が堅調であったことに加え、医薬品・受託分野が大きく伸びましたが、一部の製品で前期末に実施した事業売却の影響で、減収となりました。以上の結果、売上高は59億89百万円、営業利益は1億81百万円となりました。

## ■ 売上高

**59億89百万円**

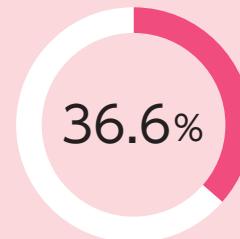
(前年同期比0.2%減)

## ■ 営業利益

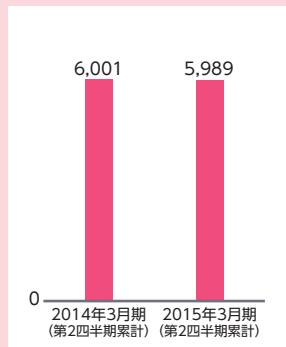
**1億81百万円**

(前年同期比7.1%増)

## ■ セグメント別売上高比率



## ■ 売上高(百万円)



## ■ 営業利益(百万円)



事業	用途
樹脂材料	ポリウレタン原料、接着剤、剥離剤
建築材料	ウレタン系防水材 (ビルや立体駐車場の屋上 ほか) セメント系防水材・止水材 (下水場、浄水場、地下ピット ほか)
特殊化学品	医薬品・農薬・樹脂関連・電子材料などの 中間材料

## 基礎化学品



### ■ 上期の概況

過酸化水素は、主力の紙パルプ分野、および動物用医薬品の需要が堅調に推移したことにより、前年同期並みとなりました。過炭酸ナトリウムは、需要が伸び悩み、減収となりました。その他の工業薬品は、輸出向けが好調だったことにより、増収となりました。以上の結果、売上高は33億94百万円、営業利益は63百万円となりました。

### ■ 売上高

33億94百万円

(前年同期比0.3%増)

### ■ 営業利益

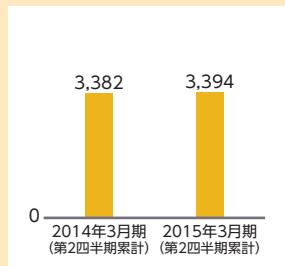
63百万円

(前年同期比33.0%減)

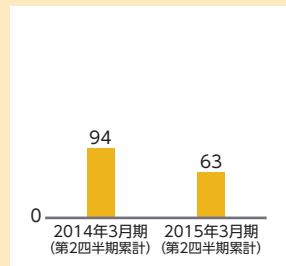
### ■ セグメント別売上高比率

20.7%

### ■ 売上高(百万円)



### ■ 営業利益(百万円)



事業	用途
工業薬品 (過酸化水素)	紙パルプ・繊維などの漂白剤、土壌処理などの環境浄化剤、養殖魚の寄生虫駆除剤 ほか



### トピックス ■ 化学の素晴らしさを子供たちへ。「夢・化学-21」に参加いたしました。

当社は6月14・15日に福島市で開催された、「夢・化学-21」に参加いたしました。「夢・化学-21」とは、日本化学工業協会などが主催する小学生を対象とした化学実験体験イベントです。県内から4つの

企業が参加し、化学の面白さ、不思議さを子供たちに紹介しました。当社郡山工場は、自社製品である洗濯洗剤用漂白剤の実演と、色の変化の実験を携えて参加しました。子供たちは色が変わる実験を楽し

# アグロサイエンス



## ■ 上期の概況

アグロサイエンス事業は、一部の製品で輸出が好調でしたが、家庭園芸用除草剤で競争の激化と在庫調整の影響があり、減収となりました。以上の結果、売上高は17億44百万円、営業利益は49百万円となりました。

## ■ 売上高

17億44百万円

(前年同期比23.8%減)

## ■ 営業利益

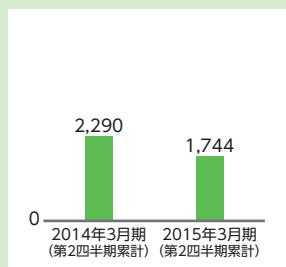
49百万円

(前年同期比51.0%減)

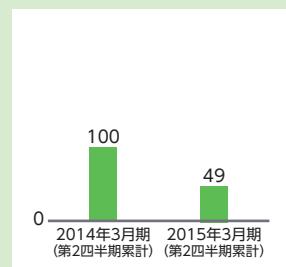
## ■ セグメント別売上高比率

10.6%

## ■ 売上高(百万円)



## ■ 営業利益(百万円)



事業	用途
農薬	非農耕地・ゴルフ場・緑地管理分野などの除草剤・殺虫剤・植物成長調整剤 ほか

そうにしており、一緒にいるお母さんは、洗剤の実演に興味を示していました。両日での来場者は延べ200名ほどになり、大盛況で「夢・化学-21」を終えることができました。

## 用語解説 ■ 剥離剤(はくりざい)

剥離剤は、紙やフィルムなどにコーティングすることで、粘着剤に対する剥離性(離型性)を付与することができます。主な用途は、テープ、フィルムの背面処理、シール、ラベルなどの剥離紙です。当社製品は、セロハンテープ、マスキングテープ、メディカルテープ、スマートフォン向け保護フィルム等に使用されています。

# 連結財務情報

## ■連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末 (2014年3月31日現在)	当第2四半期末 (2014年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	20,815	22,270
固定資産	30,110	29,986
有形固定資産	23,279	23,009
無形固定資産	1,528	1,271
投資その他の資産	5,303	5,705
<b>Point 1 資産合計</b>	<b>50,926</b>	<b>52,256</b>

### Point 1 資産合計

資産合計は、現金及び預金の増加30億71百万円、投資有価証券の増加3億53百万円、受取手形及び売掛金の減少17億34百万円等により、前期末比13億30百万円増の52億56百万円となりました。

### Point 2 負債合計

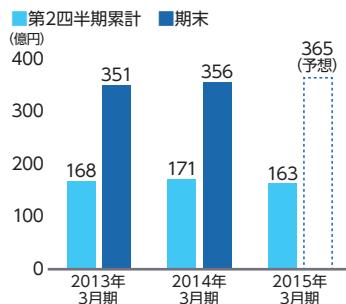
負債合計は、短期・長期借入金の増加10億42百万円、支払手形及び買掛金の減少1億17百万円等により、前期末比6億63百万円増の22億43百万円となりました。

(単位:百万円)

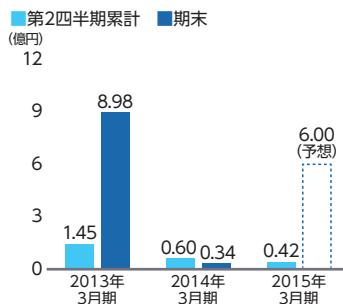
科目	前期末 (2014年3月31日現在)	当第2四半期末 (2014年9月30日現在)
負債の部		
流動負債	12,423	11,781
固定負債	9,351	10,656
<b>Point 2 負債合計</b>	<b>21,774</b>	<b>22,438</b>
純資産の部		
株主資本	22,861	22,638
資本金	11,196	11,196
資本剰余金	9,589	9,589
利益剰余金	3,770	3,549
自己株式	△1,695	△1,696
その他の包括利益累計額	4,093	4,875
新株予約権	51	—
少数株主持分	2,144	2,303
純資産合計	29,151	29,818
負債純資産合計	50,926	52,256

## ■連結業績の推移

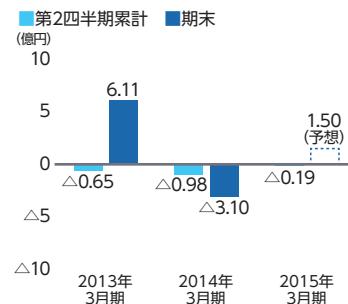
### 売上高



### 営業利益



### 経常利益(△損失)



## ■連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計 (2013年4月1日～ 2013年9月30日)	当第2四半期累計 (2014年4月1日～ 2014年9月30日)
<b>Point 3</b> 売上高	17,135	16,377
売上原価	11,880	11,535
売上総利益	5,255	4,841
販売費及び一般管理費	5,194	4,799
<b>Point 4</b> 営業利益	60	42
営業外収益	200	251
営業外費用	359	313
経常損失	△98	△19
特別利益	218	111
特別損失	67	1
税金等調整前四半期純利益	51	90
法人税等	190	94
少数株主損益調整前四半期純損失	△138	△3
少数株主利益	173	66
<b>Point 5</b> 四半期純損失	△311	△69

## ■連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計 (2013年4月1日～ 2013年9月30日)	当第2四半期累計 (2014年4月1日～ 2014年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,933	2,235
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,981	△62
財務活動によるキャッシュ・フロー	436	754
現金及び現金同等物に係る換算差額	116	161
現金及び現金同等物の増減額	505	3,089
現金及び現金同等物の期首残高	5,321	4,190
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,826	7,280

### Point 3 売上高

売上高は、アグロサイエンス、機能性色素が減少したことにより、前年同期比7億57百万円減の163億77百万円となりました。

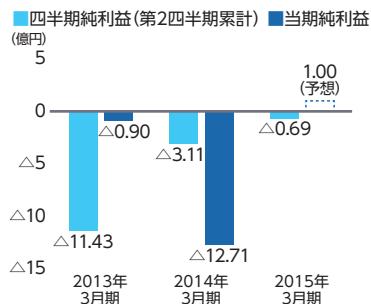
### Point 4 営業利益

営業利益は、売上高の減少、円安による原材料・燃料価格の高騰等がありましたが、販売管理費等のコスト低減に努め、前年同期比17百万円減の42百万円にとどめました。

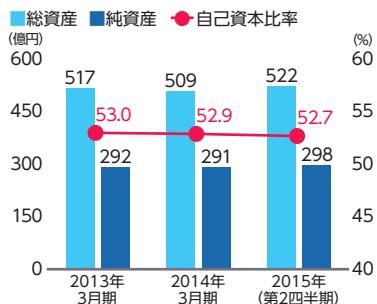
### Point 5 四半期純損失

四半期純損失は、経常利益の増加や、法人税、少数株主損益の減少等により、2億42百万円改善の69百万円となりました。

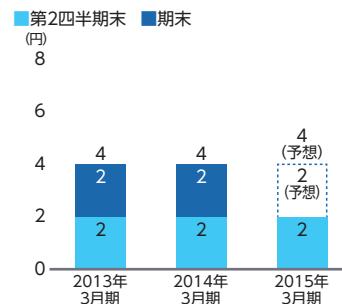
### 純利益(△損失)



### 総資産・純資産



### 1株当たり配当金



# グローバルネットワーク



## ■ グループ会社

(当社の出資比率)

### [機能性色素]

**SFC CO., LTD. (大韓民国)**  
有機EL材料および精密化学品の製造・販売 51.9%

**HODOGAYA CHEMICAL KOREA CO., LTD.**  
化学品の仕入・販売および開発 85.0%

### [機能性樹脂]

**保土谷バンデックス建材(株)**  
土木・建築材料の製造・販売 100.0%

### [基礎化学品]

**共同過酸化水素(株)**  
過酸化水素の製造 25.0%

### [アグロサイエンス]

**保土谷UPL(株)**  
農薬の製造・販売 60.0%

**保土谷アグロテック(株)**  
農薬の製造・販売 80.0%

他グループ会社1社

### [その他]

**桂産業(株)**  
化学品の仕入・販売 100.0%

**HODOGAYA CHEMICAL (U.S.A.), INC.**  
化学品の仕入・販売 100.0%

**保土谷(上海)貿易有限公司**  
化学品およびその原料の仕入・販売 100.0%

**保土谷ロジスティックス(株)**  
倉庫業、貨物運送取扱業 100.0%

**保土谷JRFコントラクトラボ(株)**  
化学品の分析および研究・開発業務受託 87.6%

他グループ会社2社

## 会社概要

社 名 保土谷化学工業株式会社  
 英文社名 Hodogaya Chemical Co., Ltd.  
 本社所在地 〒104-0028  
 東京都中央区八重洲二丁目4番1号  
 常和八重洲ビル  
 T E L 03-5299-8000(大代表)  
 F A X 03-5299-8250  
 設 立 1916(大正5)年12月15日  
 資 本 金 111億96百万円  
 従 業 員 776名(連結)、470名(個別)

## 役員

代表取締役社長 兼 社長執行役員	喜多野利和	取 締 役	江守新八郎
取 締 役 兼 専務執行役員	蛭子井 敏	取 締 役 (社 外)	加藤 周二
取 締 役 兼 常務執行役員	湯沢 和好	常勤監査役	廣田 秀世
取 締 役 兼 常務執行役員	村上 政徳	常勤監査役 (社 外)	奥平 卓司
取 締 役 兼 常務執行役員	阿部 嘉彦	監 査 役 (社 外)	櫻井 琢平
取 締 役 兼 常務執行役員	堀切 良浩	監 査 役	三柴 英嗣

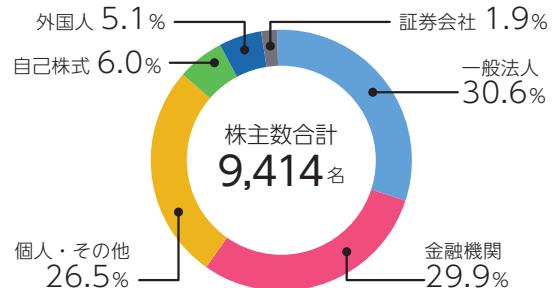
## 株式の状況

発行可能株式総数 200,000,000株  
 発行済株式の総数 84,137,261株  
 株 主 数 9,414名

### 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
東ソー(株)	16,828	20.0
保土谷化学工業(株)(自己株式)	5,060	6.0
(株)みずほ銀行	2,987	3.6
農林中央金庫	2,274	2.7
明治安田生命保険(相)	1,645	2.0
(株)東邦銀行	1,483	1.8
三井住友海上火災保険(株)	1,414	1.7
(株)山口銀行	1,300	1.5
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	1,263	1.5
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	1,246	1.5

### 所有者別株式分布状況



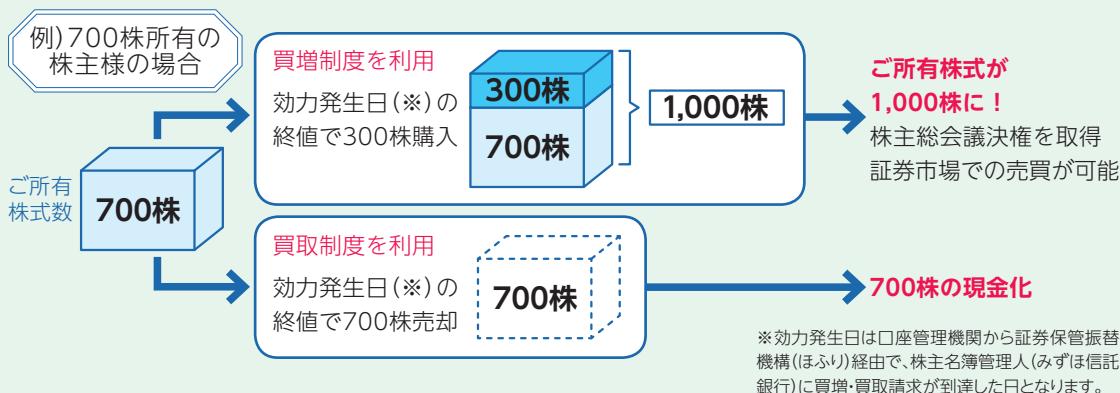
## ご存じですか？

### ■ 単元未満株式(1~999株)の買増・買取制度について

当社株式は、証券市場での売買、株主総会における議決権行使の権利が1,000株単位となっております。当社では、現在、単元未満株式をご所有の株主様に対し、単元未満株式を単元株式(1,000株)までお買い求めいただける「単元未満株式買増制度」を採用しております。

また、単元未満株式を売却できる「単元未満株式買取制度」もございますので、併せてご案内申し上げます。

なお、**買増・買取手続きにおける手数料は無料(当社負担)**とさせていただきますので、ぜひお申し込みください。お手続き・お問い合わせ先につきましては、「株式事務に関するお問い合わせ先」(14ページ)をご覧ください。



### ■ IRカレンダー 2014年度予定



## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日  
 剰余金の配当基準日 3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)  
 定時株主総会 毎年6月中  
 単元株式数 1,000株  
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 公 告 方 法 電子公告(<http://www.hodogaya.co.jp/>)  
 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

## 上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の改正により、株主様に支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を通知することとなっております。つきましては、支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、確定申告の添付書類としてご使用ください。なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われますので、確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

### ■ 株式事務に関するお問い合わせ先

#### 証券会社等に口座をお持ちの場合

①郵便物送付先、お問い合わせ先

お取引の証券会社等

②各種手続きのお取扱い  
 (住所・名称・代表者変更、単元未済株式の買増・買取請求、配当金受取り方法の変更等)

③未払配当金のお支払

みずほ信託銀行 本店および全国各支店\*  
 みずほ銀行 本店および全国各支店

#### 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)

①郵便物送付先、お問い合わせ先

みずほ信託銀行 証券代行部  
 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4  
 フリーダイヤル 0120-288-324

②各種手続きのお取扱い  
 (住所・名称・代表者変更、単元未済株式の買増・買取請求、配当金受取り方法の変更等)

みずほ信託銀行 本店および全国各支店\*  
 みずほ証券 本店および全国各支店

③未払配当金のお支払

みずほ信託銀行 本店および全国各支店\*  
 みずほ銀行 本店および全国各支店

#### ■ 特別口座とは

2009年1月5日に実施された株券電子化までに、証券会社を通じて株券を証券保管振替機構(ほふり)に預けていない場合に、株主様の権利を保全するために当社がみずほ信託銀行に開設した口座のことです。特別口座では、単元未済株式の買増・買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。

\*トラストラウンジ除く

## ■ホームページのご案内



当社ホームページでは、最新のIRニュースや財務情報など、株主・投資家様向けの情報はもちろんのこと、当社をより理解していただくための様々な情報を掲載しております。ぜひ一度ご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www.hodogaya.co.jp/>

## アンケートはインターネットまたはハガキで実施させていただきます。

インターネットまたはハガキどちらか一方でのご回答をお願いします。

インターネットでの回答方法につきましては、下記をご覧ください。

### 株主の皆様のお声を聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様のお声を

聞かせいただくため、

アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 4112

いいかぶ

検索



空メールより  
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からも  
アクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media (イー・ツー・メディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900 (平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

インターネット限定  
**PRESENT**

### 図書カードが当たります。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます。  
アンケート回答期間は、本書がお手元に到着してから約2ヵ月間です。